

令和8年度 印西市民アカデミーだより 第8号

講座9：起業について学ぶ

今回の講義では、印西市商工会の平野浩二氏から「起業について～印西市商工会の起業支援～」、合同会社ハピゴラの福原史子氏から「起業は、会社を作ることじゃない 会社員を続けながら、57歳で始めた日本酒への挑戦」というテーマでお話をいただきました。

はじめに平野氏から起業する場合に考えることやポイントについて講義いただきました。一人で事業を始める場合には、手続きの簡単さや費用面から個人事業主がおすすめな一方、取引先や業種によっては法人化が有利になる場合もあるため、それぞれの特徴を理解したうえで、自分に合った形を選ぶことが大切だと説明がありました。また、成功につなげるためには「小さく始めて長く続ける」という考え方がポイントだそうです。シニア世代の起業では、これまで培ってきた経験や人脈が大きな強みとなる一方で、生活資金と事業資金を明確に分け、健康や家族への配慮も含めた無理のない計画を立てることが重要とのことでした。

印西市商工会では伴走型支援を行っており、困ったときに「経営のかかりつけ医」である商工会に相談することも選択肢の一つです。「いんざい創業塾」についても紹介され、同じ目標を持つ仲間とのつながりが大きな力になるとのお話をいただきました。

後半は、会社員として働きながら57歳で合同会社ハピゴラを設立した福原氏から、日本酒ビジネスを始めた経験についてお話しいただきました。

「定年後はワクワクすることがしたい」と考えていたことに加え、コロナ禍をきっかけに「興味のあることは今やらないと」と感じたそうです。さらに、会社で副業が解禁されたことや、増加するインバウンド観光客に可能性を感じたことが後押しとなり起業を決意し、現在は創業3期目を迎えています。

設立自体はスムーズだったものの、想定外の酒類小売業免許の取得や法人口座の開設に苦戦したことなど、実際に起業して初めて分かった苦労や学びを率直に語ってくださいました。現在はオンラインでの日本酒販売やイベント出店などに加え、印西市商工会の日本酒プロジェクトにも参加しており、人とのつながりを大切にしながら事業を広げている様子が伝わってきました。

福原氏が最後に挙げられた「お金や才能より目的」「完璧になってから始めない」「一人で頑張るものではない」「年齢は関係ない」「夢は育て続けるもの」という言葉は、起業を目指す人だけでなく、新しいことに挑戦しようとするすべての人への力強いメッセージだったのではないのでしょうか。

今回の講演を通して、受講生一人ひとりにとって今後の行動を考えるきっかけとなることを期待しています。

